

平成26年度 自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

平成27年5月30日

平成医療学園専門学校

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1	基準5 学生支援.....	37
基準1 教育理念・目的・育成人材像.....	2	5-16 就職等進路.....	38
1-1 理念・目的・育成人材像.....	3	5-17 中途退学への対応.....	39
基準2 学校運営.....	4	5-18 学生相談.....	40
2-2 運営方針.....	5	5-19 学生生活.....	41
2-3 事業計画.....	6	5-20 保護者との連携.....	43
2-4 運営組織.....	7	5-21 卒業生・社会人.....	44
2-5 人事・給与制度.....	8	基準6 教育環境.....	45
2-6 意思決定システム.....	9	6-22 施設・設備等.....	46
2-7 情報システム.....	10	6-23 学外実習、インターンシップ等.....	47
基準3 教育活動.....	11	6-24 防災・安全管理.....	48
3-8 目標の設定.....	13	基準7 学生の募集と受入れ.....	49
3-9 教育方法・評価等.....	17	7-25 学生募集活動は、適正に行われているか.....	50
3-10 成績評価・単位認定等.....	21	7-26 入学選考.....	51
3-11 資格・免許の取得の指導体制.....	25	7-27 学納金.....	52
3-12 教員・教員組織.....	29	基準8 財務.....	53
基準4 学修成果.....	33	8-28 財務基盤.....	54
4-13 就職率.....	34	8-29 予算・収支計画.....	55
4-14 資格・免許の取得率.....	35	8-30 監査.....	56
4-15 卒業生の社会的評価.....	36	8-31 財務情報の公開.....	57

基準 9 法令等の遵守	58
9-32 関係法令、設置基準等の遵守.....	59
9-33 個人情報保護.....	60
9-34 学校評価.....	61
9-35 教育情報の公開.....	62
基準 10 社会貢献・地域貢献	63
10-36 社会貢献・地域貢献.....	64
10-37 ボランティア活動.....	65

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	平成26年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>本校は、徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成することを目的として、発足当時から産・学が連携し、社会で必要とされる高度な知識と技術を身に付けた人間性豊かな「次代の医療人」の育成に努めています。</p> <p>また、本校では、教職員一同が医療職業分野における専門性を身に付けることは重要課題ではあるが、その根底にある医療人として必要な人間性やモラルの養成にも力を注いでいる。</p> <p>教育理念に基づき、本校の教育目標を次のように定めている。</p> <p>① 人間性：人間性豊かな新しい医療業界のリーダーを育成。</p> <p>② ホスピタリティー（思いやりの心）：医療人としての使命感と社会に貢献できる力を身につける。</p> <p>③ 実践力：各職業分野における現代のニーズに即した実践的かつ専門的な知識・技術の修得。</p>	<p>我々業界で長年受け継がれてきた医療人としての姿勢である「患者との対話に基づいた医療」の大切にしながらも、今後ニーズが高まるであろう領域として、健康維持や予防医学分野、そしてスポーツや介護・福祉の分野に着目し、それらの領域で必要とされる知識と技術を身につけた上で、優れた人間性を備え、新しい時代における業界のリーダーとなりうる人材の育成を目指す。</p> <p>また、文化・教養専門課程日本語学科の設置に伴い、グローバル化に向けての活動を始動する。</p>	<p>今後ニーズが高まるであろう領域として、健康維持や予防医学分野、そしてスポーツや介護・福祉の分野に対する教員の意識は高まり、また、それらの分野の臨地実習先もまだ不十分ではあるが、徐々に増えており、教育内容にも反映されるようになってきている。</p> <p>グローバル化の活動としては、ホーチミン市医科薬大学との協定を締結し海外研修として学生を派遣した。</p>	<p>職業実践専門課程の実習先としての認められる実習先の確保ならびに要件整備。</p> <p>海外の教育機関との様々な交流事業を実施。</p>

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

増田 順一

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

(1)

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、平成 12 年 4 月に、厚生省（現厚生労働省）から柔道整復師養成施設の認可を受け、平成柔道整復専門学院を開設したことに始まります。</p> <p>翌年（平成 13 年）4 月に、大阪府知事より専修学校医療専門課程の認可を受けて学校法人平成医療学園となり、校名を平成医療学園専門学校に改称しました。その後、平成 14 年 4 月に鍼灸師科を開設、平成 18 年 4 月に東洋療法教員養成学科を開設し今日に至っています。</p> <p>本校は、徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成することを目的として、発足当時から産・学が連携し、社会で必要とされる高度な知識と技術を身に付けた人間性豊かな「次代の医療人」の育成に努めています。</p> <p>これらの教育理念・目的・育成人材像については、本校の Web ページおよび学校案内等にて学内外に周知を行うことにより、学生および教職員に対し、学園の理念や精神等を常に意識し行動指針とすることを求めています。</p>	<p>「全国柔整鍼灸協同組合」が母体となり、柔道整復、はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧の施術を行っている臨床家たちが、自らの後継者を自らの手で育てようという理念に基づき、外部の医療資格者や関係団体と密に連携をとり、医療現場や施術所経営の実務で求められている実践的な知識・技能をもった人材育成に努めています。</p> <p>また、今後ニーズが高まるであろう領域として、健康維持や予防医学分野、そしてスポーツや介護・福祉の分野に着目し、それらの領域で必要とされる知識と技術も身につけた上で、優れた人間性を備え、新しい時代における業界のリーダーとなりうる人材の育成を目指しています。</p> <p>また、近年のグローバル化への対応、ならびに我が国の少子高齢化に伴う労働人口の不足問題の改善を図るために、平成 26 年度より文化・教養専門課程日本語学科を開設し、主にアジア諸国からの留学生を受け入れ、日本語能力はもちろん、日本の事情や文化を理解する人材を育成し、日本の医療福祉分野への進学及び国家資格取得をサポートします。</p>

最終更新日付	2015 年 5 月 30 日	記載責任者	増田 順一
--------	-----------------	-------	-------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	日本及び諸外国における医療人を養成する施設として、理念・目的・育成人材像は、わかりやすい表現で明確に定める。	本校の目的は、学則第1条に明記し、理事長・校長のメッセージとして分かりやすく解説している。		平成医療学園専門学校学則
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	専門分野に関する業界情報を常に把握し、時代に即した業界等の人材ニーズに応じるための教育を行うべきである。	母体である専門分野に関する業界団体が、学校経営や教育に深く係わり、育成人材像を共有した上で、学校を運営している。		
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	理念等の達成に向けて、時代に即した特色ある教育活動に取り組むべきである。	新しい分野等で活躍する業界の専門家を講師として迎え入れ、教育を行っている。		
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	業界の専門分野に対する社会のニーズならびに、外的・内的環境を把握し、専門分野の可能性を高める努力をする。	現役の臨床家を教育課程編成委員会の委員として招き、常に業界の動向を踏まえた教育の実践に努力している。	グローバル化への対応	平成医療学園専門学校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念・目的・育成人材像については明確に定められている。しかしながら、文化・教養専門課程日本語学科の開設に伴う内容が学内外に十分に周知されていない。	学校創設当初より現在に至るまで、教育理念等に加えグローバル化の内容が盛り込まれ、育成人材像については、適宜、社会のニーズに対応できるよう改善に取り組んでいる。

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

増田 順一

基準 2 学校運営

(2)

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営について、毎年度、学園全体として捉え、部門毎に事業計画書を作成し、理事会、評議員会の承認を得て、実施している。</p> <p>学園運営組織としては、常任理事会を設置し、学園の日常業務のほか、理事会から付託された事項について審議・決定する機関であり、学校法人として機動的に意思決定できる体制を整えた。</p> <p>学校運営組織としては、学校関係者評価委員会、ならびに教育課程編成委員会を設置し、外部委員を招いて、学校運営ならびに教育内容について、評価ならびに検討している。</p> <p>各委員会での内容を学校運営に反映させた上で、毎月、全教職員が出席する教職員会議や、部長以上で構成される運営者会議、学科長以上で構成される教務会、そして各学科の専任教員で構成される教員会議を開催している。</p> <p>また、校内の情報伝達や情報共有はグループウェアを活用し、円滑な学校運営に必要な情報を共有し、各部門が業務に取り組んでいる。</p>	<p>常任理事会を設置し、学園の日常業務のほか、理事会から付託された事項について審議・決定する機関であり、学校法人として機動的に意思決定できる体制を整えた。</p> <p>また、学校関係者評価委員会、ならびに教育課程編成委員会を設置し、外部委員を招いて、学校運営ならびに教育内容について、評価ならびに検討している。</p> <p>教員会議とは別に、外部講師も出席する部門毎の実技会議を実施し、職業実践に関わる専門的な知識や技術について、専任教員と外部講師が協力ならびに情報共有することにより、よりよい教育の実践を目指している。</p> <p>2校舎で運営しており、教務室と事務室が別校舎であることにより、情報伝達等の速度や正確さに問題があったが、グループウェア導入後は改善されてきている。</p>

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

増田 順一

2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	学園理事会、評議員会において承認された事業計画、予算に基づき、運営する。	学園規則においては、社会の状況に応じ、理事会で常に整備を行っている。	様々なグローバル化への活動を始動する。	平成 26 年度事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年度作成している事業計画書は理事会によって承認されており、この事業計画書によって学校運営方針は定められている。 学校運営方針の校内への周知については常に会議や連絡を行い、全教職員が共有できるように努めている。	平成 26 年度に文化・教養専門課程日本語学科の設置を活かした取組み。

最終更新日付	2015 年 5 月 30 日	記載責任者	増田 順一
--------	-----------------	-------	-------

2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	年度毎に詳細な事業計画を定め、学園理事会、評議員会にて承認を得る。	毎年度、部門毎に事業計画書を作成し、理事会、評議員会において承認を受けている。		平成 26 年度事業計画書 平成 26 年度事業報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年度、部門毎における事業計画書ならびに事業報告書を作成している。事業計画書は常任理事において精査され、学園理事会、評議員会において承認を受けている。	

最終更新日付	2015 年 5 月 30 日	記載責任者	増田 順一
--------	-----------------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	学園理事会、評議員会において承認された組織規程、事業計画、予算に基づき、運営する。	常任理事会を設置し、学園の日常業務のほか、理事会から付託された事項について審議・決定する機関であり、学校法人として機動的に意思決定できる体制を整えた。		平成 26 年度事業計画書
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	学園理事会、評議員会において承認された事業計画について、毎年度教員便覧を作成し、教職員全員に告知する。	学校関係者評価委員会ならびに教育課程編成委員会を設置し、外部委員を招いて、学校運営や教育内容について、継続的に評価し検討している。 毎年度初めに、外来講師を含む教職員全員を対象とした講師会を開催し、次年度の運営方針について、説明を行い、周知徹底を図っている。		平成 26 年度教員便覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年度作成している事業計画書は、学園理事会、評議員会において承認されており、この事業計画書によって当該年度の学校運営方針を定めている。教職員に対する周知は、毎年度教員便覧を作成し、毎年度末に行われる次年度（当該年度）に向けての講師会において実施されている。	各部門（学校）に、理事者より統括長を配置しており、学園全体における部門の役割を情報共有することができる組織となっている。

最終更新日付	2015 年 5 月 30 日	記載責任者	増田 順一
--------	-----------------	-------	-------

2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	学校運営の状況を考慮し、法人本部において計画的に人員の確保及び配置を行う。 学園の教職員給与規定に基づき適切に運用する。	学校運営の状況を考慮し、法人本部において人員の確保及び配置を行っている。 26年11月21日の理事会・評議委員会にて、「専任教員給与規程」「専任職員給与規程」「非常勤者等給与規程」「退職金規定」「専任教職員就業規則」「非常勤者等就業規則」「育児・介護休業等に関する規程」を改正した。		専任教員給与規程 専任職員給与規程 非常勤者等給与規程 退職金規定 専任教職員就業規則 非常勤者等就業規則 育児・介護休業等に関する規程 教職員名簿 自己評価報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
人事及び賃金に関する規程は、学校法人平成医療学園 専任教職員就業規則、非常勤者就業規則で定め、整備している。	人事・給与に係わる規程の改正を行った。

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

増田 順一

2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	学校法人平成医療学園寄附行為に基づき、理事会を中心とした意思決定システムを構築する。	<p>学園においては、寄付行為及び事務分掌規程に基づき、意思決定の階層、権限を明確にしている。</p> <p>常任理事会を設置し、学園の日常業務のほか、理事会から付託された事項について審議・決定する機関であり、学校法人として機動的に意思決定できる体制を整えた。</p> <p>学校においては、学則に基づき、意思決定を実施している。</p>	意思決定の迅速化を図るためシステムの電子化を図る。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
起案は事業計画に基づいて各担当者が行い、各部署の決済順序に従い決済することにより意思決定を図っている。	常任理事会を設置し、学園の日常業務のほか、理事会から付託された事項について審議・決定する機関であり、学校法人として機動的に意思決定できる体制を整えた。

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

増田 順一

2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化 に取組み、業務の効率化を図っているか	学園全体及び学校内でのネットワーク構築により、業務の迅速化、効率化を図る。	学籍管理システムならびに、学校内でのネットワーク化の構築を進めており、情報の共有、業務の効率化を図っている。	法人本部との情報ネットワークの一元化に至っていない。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
業務の効率化を図るため、教職員全員が専用のパソコンが配布され、学校内ネットワークを構築し、情報共有や業務の効率化を図っている。	使用校舎が2棟あるため校内ネットワーク構築が複雑化し、ネットワークの構築に時間と費用がかかる。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

基準 3 教育活動

(3)

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教務全体目標として教務会が示す教育指針と毎年の目標を定め、医療を学ぶ姿勢や医療を学ぶ学生としての身だしなみ、言葉遣い等の躰教育も行っており業界のニーズに応える社会人教育も行っている。</p> <p>柔道整復師科、鍼灸師科ともに、基礎および専門基礎分野の担当者の意見を取り入れ、年度末に講師会を開催し、全教員に対する意思統一を持って各担当の年間教育にとどまらず3年間での専門教育の達成を目指している。</p> <p>カリキュラムに関しては、「柔道整復師法施行令」「あん摩マッサージ指圧師、はり師およびきゅう師に関する法律施行令」「柔道整復師学校養成施設指定規則」「あん摩マッサージ指圧師、はり師、およびきゅう師に係る学校養成施設認定規則」に基づき指定単位数以上の単位取得をさせている。</p> <p>また、各業界の動向を毎年度確認し、時流に沿った教育目標を定めシラバスも随時年度前に作成して、学生への学習意欲向上と実践的な知識と技術が融合して将来の臨床の現場で知恵の働かすことができる応用力のある学生を育てることを目標としている。</p> <p>柔道整復科では、柔道整復師に課せられた国民からの期待と義務を根幹として日本古来の柔道整復術に西洋医学の理論を癒合せせた臨床力と患者にインフォームドが確実にける信頼される医療人教育を目指す。</p> <p>鍼灸師科では、基礎医学としての西洋医学をしっかりと学ばせ、そこに東洋医学の知識、技術を積み上げさせ、西洋医学の治療法だけでは対応できない患者を東洋医学一辺倒だけではなく西洋医学の医療機関と協力して鍼灸治療が実践できるように、信頼される鍼灸師になる教育を目指す。</p> <p>両科とも、国家試験合格率100%を目標とし国家試験対策委員会により、模擬試験、実力試験等を検討し学生の学習習熟度を検討している。</p> <p>半期ごとに授業アンケートを行い、各教員へフィードバックし質の高い授業の実施と教育内容の向上を図っている。</p> <p>東洋療法教員養成学科では、教育実習や臨床実習など実践に即した高度な実習を行い、質の高い教員及び高い臨床能力を有する治療家を養成すること目標とする。</p>	<p>各施行令、学校養成施設認定規則等の資格取得指定単位以外にも、本校独自のゼミナール科目を設け、業界団体および外部企業からの講師招聘し、より実践的な技術を伝授する機会を与えている。また外部臨地実習も行い、健康維持や予防医学分野、そしてスポーツや福祉の分野である実際の医療や介護の現場を経験させることにより、緊張感のある現場での充実感や、それ以前に人間として人と係る職業に感動を覚える機会の場所を提供している。</p> <p>柔道整復師科では、学生が医療に関するテーマで課題を見つけ、研究計画、調査計画を立て、結果を整理してポスターや学術大会で発表することにより探究心を育てる。学業を深めさせるとともに、学生が課題を見付け、自らが学び、自らが考える、主体性を育てる。問題を解決する資質や能力を育成することを目標とする。</p> <p>鍼灸師科では、ゼミナール科目を設け、福祉・美容・スポーツ分野の外部企業や講師による講義、外部臨地実習などに参加することによって、求められる鍼灸師像を学生が自ら描き、自己実現するために、自身の目標・目的を再認識する機会やコミュニケーション能力を養う場を提供している。</p> <p>学生が、目標・目的から「逆算」し、「計画」を立て、変化する状況に対応しながら「実行」し、「モチベーションを維持」できるように教員がフォローする体勢が必要である。</p> <p>東洋療法教員養成学科では、社会・地域貢献として、ボランティア活動の参加を支援し、地域住民の健康増進に寄与し、また医療人としてのホスピタリティマインドやコミュニケーション能力を養う場を提供している。</p>

日本語学科では、教務全体目標として教務会が示す教育指針と毎年の目標を定め、いずれ日本国内の企業、及び海外の日系企業で就職した際のための、身だしなみ、言葉遣い及び、行儀などの躰教育など、社会人教育も行っている。

学科ミーティングのほか、日常的に教員の意思統一を持って各担当のクラスの教育にとどまらず入学から卒業までトータルで学生それぞれのニーズに合った目標達成を目指している。

カリキュラムに関しては、「日本語教育機関設置基準」に基づき指定時間数の日本語教育と、それ以外に目標達成のために必要なニーズに応じた学習をさせている。

課外活動、進路指導を通じ、学生への学習意欲向上と将来設計が応用力のある学生を育てることを目標としている。

日本語学科では、「日本事情」「日本文化」の教育にも力を注ぎ、講義や体験を通し、日本と自国との懸け橋になれるような国際人の育成を目指す。

日本語学科では、日本での医療系、一般大学という幅広い進学先に対応するため、進学という幅広い学生のニーズにこたえるため、個人面談、進路指導などをできる限り行う。

また、郵便物の受け取り引っ越しの手続きなどの指導を通して、進学後、自立した生活を送れるようにサポートをする。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	北野 吉廣
--------	------------	-------	-------

3-8 目標の設定（柔道整復師科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	業界等と連携を図ることにより業界のニーズレベルを把握し、目標レベルに近づけるように教育課程編成ならびに実施方針を定める。	教育課程編成委員に業界関係者を配置し、業界のニーズレベルに則した教育課程の編成方針や実施方針を定める。	学生個人が目指しているニーズレベルと業界の求めるニーズレベルに差異があり、学生がいかに関心し納得して就学意欲に結び付けられるかが課題である。	
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	学科毎の修業年限に応じた教育達成レベルを明確にし、運営する。詳細についてはシラバスで明記する。	学年毎ごとの知識ならびに実技の達成レベルを明確にし、その内容はシラバス等に明記している。	全科目、全授業担当者別に詳細なシラバス提出を義務付けているが、今後は学生の理解度がクラス単位で偏りが見られる為、ある程度の幅を持った進行が必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>業界の求める人材ニーズレベルを3年間で教授することは困難であるため、限られた教育期間で、就業に必要な基礎的な知識・技術の修得を目指す教育課程を編成し、授業内容については、到達目標、知識・技能の標準、評価の基準を明示し、学生に公表している。</p> <p>業界の求める人材ニーズレベルに対しては、学外実習やゼミナールなどの活動を通して教授し、できる限り担保することを心掛けている。</p>	<p>学生個人の各業に対する目標が抽象的であり、柔道整復師、鍼灸師として様々な活躍の現場を知らないため、様々な現場を体験できる学外実習やゼミナールにより具体的な目標設定の幅が広がっている。</p>

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	竹本 晋史
--------	------------	-------	-------

3-8 目標の設定（鍼灸師科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	業界等と連携を図ることにより業界のニーズレベルを把握し、目標レベルに近づけるように教育課程編成ならびに実施方針を定める。	教育課程編成委員に業界関係者を配置し、業界のニーズレベルに則した教育課程の編成方針や実施方針を定める。	現在の学生個人のレベルと業界の求めるニーズレベルの差異を常に意識させ、達成度合いを意識し、今後の学習意欲につながる機会を提供することが課題である。	
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	学科毎の修業年限に応じた教育達成レベルを明確にし、運営する。詳細についてはシラバスで明記する。	提出シラバスを確認し、講義と実技、また他の科目ができるだけリンクするよう年度初めに授業計画を変更するなどし、学生が理解しやすいよう工夫を行っている。	理解度がクラス単位で偏りが見られる為、理解度によって教授方法を変えるなど幅を持った進行を行い、最終教育到達レベルに近づける工夫が必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>業界の求める人材ニーズレベルを3年間で教授することは困難であるため、限られた教育期間で、就業に必要な基礎的な知識・技術の修得を目指す教育課程を編成し、授業内容については、到達目標、知識・技能の標準、評価の基準を明示し、学生に公表している。</p> <p>業界の求める人材ニーズレベルに対しては、外部臨地実習やゼミナール科目などの活動を通して教授し、できる限り担保することを心掛けている。</p>	<p>求められる鍼灸師像を自ら描き、学生が自己実現できるように目標設定の手助けとして、鍼灸師が様々な場所で活躍している様子や話を卒業生から聞く、また体験するなど学外実習やゼミナール科目を行っている。</p>

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

内野容子

3-8 目標の設定（東洋療法教員養成学科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	専門性の高い授業によって、実践を通して幅広い知識や各種治療技術を習得し、後継者の育成にあたる優れた教員としての素養を身につけることを目標とする。	各分野で活躍する教員より鍼灸臨床や教育法などの知識を学び、演習や実習を中心とした内容の充実により教育課程の編成や実施を行っている。	演習や実習時間を確保し、教員に必要な問題解決能力やコミュニケーション能力を養うため、学生に積極的参加や意見交換を促す必要がある。	
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	学科毎の修業年限に応じた教育達成レベルを明確にし、運営する。詳細についてはシラバスで明記する。	提出シラバスを確認し、演習・実習などの学生が積極的に参加する時間が確保できているか確認を行い、必要であれば年度初めに授業計画を変更するなど行っている。	各養成施設での学習内容に偏りが見られる為、演習・実習において教授方法を変えるなど幅を持った進行を行い、最終教育到達レベルに近づける工夫が必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>実践を通して幅広い知識や各種治療技術を習得し、後継者の育成にあたる優れた教員としての素養を身につけることを目標とした教育課程を編成している。</p> <p>授業方法については、演習・実習形式を多く取り入れ学生参加型授業を多く行い、臨床能力に加え、問題解決能力やコミュニケーション能力を養う事に力を入れている。</p>	<p>あはき師の質を高める基本は、質の高い教育であり、その教育者を目指す人材として求められている素養を意識させ、常に向上心・探求心をもち、あはき師として社会や地域貢献への関心をもつようボランティア参加など積極的に推奨する。</p>

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	内野容子
--------	------------	-------	------

3-8 目標の設定（日本語学科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	目標レベルに近づけるように教育課程編成ならびに実施方針を定める。	入学時にはプレイスメントテストを実施し、全体のレベルと目標に合わせたシラバスを作成する。	国や文化の違い、国での学習歴、基礎学力、語学センスによりクラスの学習進度を調整する。そのため、程度の個別指導課題を出すなどの個別調整が必要。	
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	それぞれのコースの修業年限に応じた教育達成レベルを明確にし、運営する。	半年ごとの目標レベルを明確にし、クラス運営をする。	各担当者に、詳細なシラバス提出を義務付けているが、学生の理解度に合わせ、微調整が必要。詳細な授業日誌をつけることで、記録と進捗チェックをする必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各種試験に必要な知識、レベルを明確に伝え、週ごとに時間わりと授業範囲も明示している。	「進路」「専攻」などを考えたことがない学生が多いため、目標を設定できない学生が多い。また、自宅学習の習慣がない学生も多く、課題を通して自宅学習の習慣を身につけさせたり、中長期の目標を繰り返して説明したりし、将来の仕事、夢などを見据えて今何をすべきかという進路指導を行う必要がある。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	栗本 久美
--------	------------	-------	-------

3-9 教育方法・評価等（柔道整復師科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	業界団体関係者等の外部役員ならびに本校教職員から成る、教育課程編成委員会を設置し教育課程を編成する。	教育課程編成委員会での協議・決定された内容を元に、各部門で教育課程を編成する。	教育編成委員会の教育課程に対する認識の向上の努力を継続する。	
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	業界や他施設の教員と積極的に意見交換を行い、教育内容に反映させる。	全国柔道整復学校協会教員研修会や学会、学外活動への参加を奨励し、外部との接触機会を増やしている。	学外活動の参加に偏りが見られる。学内での学外講師を招待し研修会させる必要がある。	全国柔道整復学校協会教員研修会報告書 校内教員研修報告書
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	本校は専門分野の養成施設であり、教育課程全体が職業教育であることを教員が理解し、キャリア教育を行う。	社会に貢献できる知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、社会順応性を持った能力を育てる教育も行う。	学生の多様化により、教員が個々の学生に対応する能力に乏しい部分があり、教員研修等での教員の資質向上が求められる。	
3-9-4 授業評価を実施しているか	各学年次の科目終了毎に選択式と自由記述による授業評価アンケートを実施する。	授業アンケートを実施し、各教員にフィードバックしている。	評価結果表を個人情報として教員個別に配布しているが、改善すべきところは個人の自助努力としているため効果を期待する方法の検討が必要。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育編成委員会により様々な協議がされたが、決議し実行すべき優先順位を決定するための委員会のキャリア教育に対する意見交換が今後も必要と考える。	今年度より全教員参加型の研修を校内で行った。 柔道整復、鍼灸の技術を持ってスポーツトレーナーを目指す学生が多くなったことから、現役プロ野球トレーナーを講師に招き、現場で使える技術を研修した。臨床経験豊富な教員の治療所見学を取り入れ現場力の向上に努めた。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	竹本 晋史
--------	------------	-------	-------

3-9 教育方法・評価等（鍼灸師科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	業界団体関係者等の外部役員ならびに本校教職員から成る、教育課程編成委員会を設置し教育課程を編成する。	教育課程編成委員会での協議・決定された内容を元に、各部門で教育課程を編成する。	教育編成委員会の教育課程に対する認識の向上の努力を継続する。	
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	業界や他施設の教員と積極的に意見交換を行い、教育内容に反映させる。	学会、学外活動への参加を奨励し、外部との接触機会を増やしている。	学内で学外講師による研修会や学外の教育指導に関わるセミナーなど積極的参加を推奨する。	校内教員研修報告書
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	本校は専門分野の養成施設であり、教育課程全体が職業教育であることを教員が理解し、キャリア教育を行う。	国家試験合格のみを目標とするのではなく、臨床経験豊富な教員による教育を実施し合格後を見据えた教育も行う。	実技や外部臨地実習やゼミナール科目において進路への関心、意欲を高める工夫し、学習意欲と結びつけることが必要。	
3-9-4 授業評価を実施しているか	各学年次の科目終了毎に選択式と自由記述による授業評価アンケートを実施する。	授業アンケートを実施し、各教員にフィードバックしている。	評価結果表を個人情報として教員個別に配布しているが、改善すべきところは個人の自助努力としているため効果を期待する方法の検討が必要。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
社会人・職業人としての資質・能力を高めるキャリア教育の充実が必要であり、外部臨地実習先の確保や指導者の確保が今後も必要と考える。	指導者の質を高めるため、引き続き全教員参加型の研修を校内で行う予定としている。 また外部で行われるセミナーなどの積極的参加を推奨している。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	内野容子
--------	------------	-------	------

3-9 教育方法・評価等（東洋療法教員養成学科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	業界団体関係者等の外部役員ならびに本校教職員から成る、教育課程編成委員会を設置し教育課程を編成する。	教育課程編成委員会での協議・決定された内容を元に、各部門で教育課程を編成し、年間授業計画に基づき授業を行っている。	教育編成委員会の教育課程に対する認識の向上の努力を継続する。	
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	業界や他施設の教員と積極的に意見交換を行い、教育内容に反映させる。	学会、学外活動への参加を奨励し、外部との接触機会を増やしている。	学内で学外講師による研修会や学外の教育指導に関わるセミナーなど積極的参加を推奨する。	校内教員研修報告書
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	本校は専門分野の養成施設であり、教育課程全体が職業教育であることを教員が理解し、キャリア教育を行う。	臨床実習や教育実習など経験豊富な教員による授業を実施している。また現場実習を取り入れている。	学内での臨床実習・教育実習以外に外部臨地実習や学外研究への協力などの参加について検討する必要がある。	
3-9-4 授業評価を実施しているか	各学年次の科目終了毎に選択式と自由記述による授業評価アンケートを実施する。	授業アンケートを実施し、各教員にフィードバックしている。	評価結果表を個人情報として教員個別に配布している。改善すべきところは個人の自助努力としているため効果を期待する方法の検討が必要。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
外部の意見を取り入れ、年間授業計画に基づいて授業を進めている。授業アンケートを実施し、授業内容、方法に対する評価の実施と教育改善を行っている。	教員が研修やセミナーなどに積極的に参加できる体制を作り、教育方法の改善やキャリア教育の実施を行っている。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	内野容子
--------	------------	-------	------

3-9 教育方法・評価等（日本語学科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	ニーズ分析、レベルチェック実施後、学科教員全員で協議の上、目標設定し、それに沿った教育編成を行う。	設定された目標にしたがって教育課程を編成する。	来日直後は、漠然とした目標しかない学生が多いため、設定が難しい。軌道修正ができる幅がある教育課程の編成が必要。	
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	他校との意見交換の場を持ち、教育に反映する。	他校との協議会などに積極的に参加し、留学生の現状を把握する。	他校の非漢字圏の学生への対応などを参考にし、授業に反映する。	
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	本学科は卒業後進学することが中心であるため「キャリア教育」は実施していない。	就職可能な条件の学生がいた場合、個別対応としてキャリア教育を実施する。	査証の取得可能な範囲などの情報収集をする。	
3-9-4 授業評価を実施しているか	各学年次の科目終了毎に選択式と自由記述による授業評価アンケートを実施する。	学生の人数が少ないこと、また日本語でのアンケートが難しいことから初年度は実施しなかった。	少人数のため、アンケートの説明をすると回答の誘導や、学生の特定につながるため、一定数の学生になった時点で、簡易アンケートを実施する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
多様化する留学生、多様化するニーズの学生に対応できるための目標設定が必要となっている。また、教室内での学習のほかに、弱点を克服するための課題、会話力、生活のためのコミュニケーション能力を育てる教育を行う。	校外学習や本校食堂での調理実習などの日本文化体験を通じて、他学科との交流をすることで、自国の文化、考え方などの振り返りを行った。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	栗本 久美
--------	------------	-------	-------

3-10 成績評価・単位認定等（柔道整復師科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	成績評価・単位認定の基準については、教務会規則で明確にし、事前に学生に提示する。	筆記試験・実技試験により成績評価を行っている。一定の評価以上を獲得し、規定の出席数を満たしている者が単位を認定される。	学生のしおりで評価規定を提示しているが、学生の文章読解力が乏しいため、理解されず口頭による説明が何度も必要と思われる。	学生のしおり

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価、単位認定に関しては、本校規定に定めた通りに厳格に行われている。単位互換に関しても規定どおりに行われている。単位互換による当該単位の学力が低下している学生が見られ今後の単位互換方法の改善が検討される。	姉妹校と提携した模擬試験又は、実力試験を実施し学生の学力評価の資料としている。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	竹本 晋史
--------	------------	-------	-------

3-10 成績評価・単位認定等（鍼灸師科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	成績評価・単位認定の基準については、教務会規則で明確にし、事前に学生に提示する。	筆記試験・実技試験により成績評価を行っている。一定の評価以上を獲得し、規定の出席数を満たしている者が単位を認定される。	学生のしおりで評価規定を提示しているが、シラバスへ評価について記載し、授業開始時、試験前に担当者からの説明が必要と思われる。	学生のしおり

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価、単位認定に関しては、本校規定に定めた通りに厳格に行われている。単位互換に関しても規定どおりに行われている。単位互換による当該単位の学力が低下している学生が見られ今後の単位互換方法の改善が検討される。	

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	内野容子
--------	------------	-------	------

3-10 成績評価・単位認定等（東洋療法教員養成学科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	成績評価・単位認定の基準については、教務会規則で明確にし、事前に学生に提示する。	筆記・実技試験、レポート提出、発表内容などにより成績評価を行っている。一定の評価以上を獲得し、規定の出席数を満たしている者が単位を認定される。	学生のしおりで評価規定を提示しているが、各科目・各教員によって評価方法に違いがあるため、授業開始時、試験前に担当者からの詳細な説明が必要と思われる。	教務会規則 学生のしおり

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価、単位認定に関しては、本校規定に定めた通りに厳格に行われている。	

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	内野容子
--------	------------	-------	------

3-10 成績評価・単位認定等（日本語学科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	成績評価基準については、教務会規則で明確にし、事前に学生に提示する。	筆記試験・口頭試験・模擬テスト、出席率により成績評価を行っている。	入学時にオリエンテーションを実施し、細かく説明をしているが、理解できておらず、試験のたびに説明が必要となっている。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価に、出席管理については本校規定に定められたとおり、厳格に行っている。しかし、漢字圏の学生の入学に伴い、従来主流だった中国人留学生に比べ、学力や、漢字からの意味の類推ができないがための、成績向上に苦慮している。今後、漢字圏以外からの留学生に対して試験内容、評価などを検討していく必要がある。	

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	栗本 久美
--------	------------	-------	-------

3-11 資格・免許の取得の指導体制（柔道整復師科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	指定規則よりカリキュラム内容が規定されているため、そのカリキュラムに則った、カリキュラムを組む。	指定規則に規定された以上の単位数であり、それ以外にも本校独自の学外実習を明確に示している。国家試験出題科目以外の教科であっても、卒業後、社会で必要となる知識を教授するカリキュラムを組んでいる。	今年度、全学年が新カリキュラムとなり、教員、学生に周知できたが、不慣れな点から授業進行に問題点が見られ、今後の課題と思われる。また、学生の読解力の低下が見受けられる為、この点も教育課程上での見直しが検討されるべきだと思われる。	平成医療学園専門学校学則
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	指定規則に則ったカリキュラムの内容で、国家資格取得のための授業を実施する。	3年次は国家試験対策を行うとともに実技科目をより臨床的な内容にシフトし応用問題解決能力を高めている。 また、模擬試験にも力を入れている。	3年次の学力だけではなく1年次から国家試験合格のための積み上げ教育の効率化が必要である。 新入生の学力低下の対策が必要と思われる。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国家試験合格に向けての講義ばかりではなく、国家資格者として恥じない知識構築の講義、技術習得のための実技や実習ができるカリキュラムを組んでいる。 学力不足、学習能力の低い学生には担任による支援だけではなく、各科の教員全員が補習にあっている。	学生各自が自習できる共創空間を作るなど、環境整備に取り組んでいる。教員だけではなく東洋療法教員養成科の学生によるチューター性を導入し、学習助言を行っている。

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

竹本 晋史

3-11 資格・免許の取得の指導体制（鍼灸師科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	指定規則よりカリキュラム内容が規定されているため、そのカリキュラムに則った、カリキュラムを組む。	指定規則に規定された以上の単位数であり、それ以外にも本校独自の学外実習を明確に示している。	資格・免許取得のための時間設定がなされ、指導を行っているが、学力低下や学生間の理解度の違いにより効率の良い授業とはいえない。授業の教授方法などの工夫や授業外での指導が必要である。	平成医療学園専門学校学則
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	指定規則に則ったカリキュラムの内容で、国家資格取得のための授業を実施する。	3年次は国家試験対策を行うとともに実技科目をより臨床的な内容にシフトし応用問題解決能力を高めている。	3年次の学力だけではなく1年次から国家試験合格のための積み上げ教育の効率化が必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国家試験合格に向けての講義ばかりではなく、国家資格者として恥じない知識構築の講義、技術習得のための実技や実習ができるカリキュラムを組んでいる。	学力不足、学習能力の低い学生には担任による支援だけではなく、各科目の教員全員が補習にあっている。 授業外でフォローアップゼミを開講している。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	内野容子
--------	------------	-------	------

3-11 資格・免許の取得の指導体制（東洋療法教員養成学科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	指定規則よりカリキュラム内容が規定されているため、そのカリキュラムに則った、カリキュラムを組む。	指定規則に規定された以上の時間数であり、それ以外にも本校独自のゼミナールとして教育実習事前・事後指導、臨床実習事前・事後指導を設けている。	卒業試験や国家試験などがなく、2年間の各授業評価によって資格が与えられるため、学生の達成度や臨床・教育能力に差がある。臨床実習や教育実習では厳しい評価基準を設けることも検討したい。	平成医療学園専門学校学則
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	指定規則に則ったカリキュラムの内容の授業を実施する。	臨床や教育経験豊富な教員による授業を実施し、演習や実習などで学生が実践力を身につける教育を行っている。	入学生は鍼灸師として一定レベルの能力を持っていることが前提だが、臨床・教育能力の学生間の差に対する支援体制を整える必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
鍼灸師としての臨床能力、そして教育者として素養や実践力を身につけるため指定規則に則ったカリキュラムの内容の授業を実施している。また指定規則のカリキュラム外で教育実習・臨床実習の指導を行う体制を設けている。	鍼灸業界のニーズは幅広く、求められる人材も多種多様であるため、時間外ゼミとして多くの講座を開講し、教員として知識や技術を広げる場を設けている。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	内野容子
--------	------------	-------	------

3-11 資格・免許の取得の指導体制（日本語学科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	指定規則よりカリキュラム内容が規定されているため、そのカリキュラムに則った、カリキュラムを組む。	指定規則に規定された以上の時間数であり、それ以外にも本校独自の授業についても明示している。	各個人によって、必要とする資格（日本留学試験、日本語能力試験 各レベル）が違うため、個別に指導する必要がある。	
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	指定規則に則ったカリキュラムの内容で、日本語能力試験、日本留学試験のための授業を実施する。	各種試験対策を行うとともに個人面談を行い、個別にレベルや、必要な試験への取り組み方の説明も実施する。	入学直後から、卒業までの期間で受験できる試験の回数、レベルを説明するとともに、大学受験に必要な科目についての学習指導も必要となる。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
日本語能力試験でのN2～N1獲得、日本留学試験高得点獲得に向けての講義、演習ばかりではなく、日本での文化を知り、大学へ進学後に帰国もしくは各国でグローバルに活躍できる人間形成を目的としたカリキュラムを組んでいる。	語学力不足、学習能力の低い学生には担任による支援だけではなく、各科の教員が数学や総合科目にあたり協力し、学園祭へ母国の食文化を紹介することにより各科の学生や地域住民とコミュニケーションをとる機会を与え日本語を体験できることに努めている。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	栗本 久美
--------	------------	-------	-------

3-12 教員・教員組織（柔道整復師科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	認定規則ならびに学則で定められた教員資格・要件を備えた教員を確保し教育を実施する。教員は知識と技能を身に付けた人間性豊かな医療人の育成に努める。	毎年、認定規則ならびに学則で定められた教員資格・要件をみただけでなく、経験豊富で医療現場の第一線で活躍する教員を確保している。	他校卒業生が毎年入職し、組織内人間関係構築に苦慮していたが、落ち着きを取り戻した。今後、教員の職務から必然的に求められる資質向上や多様化する社会に適応する能力が求められる。	
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員の資質向上のため研修計画を定め、適切に運用する。	研修制度を設け、研修内容を教務会が教員個人のキャリアアップだけではなく学生へフィードバックできるものを許可している。	研修されたものが、どれだけ学生にフィードバックされたか数値化できないため、今後の認定は教育機関への研修にすべきか検討する。	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	各部門（学科）の上位に教務会を設置し、各科においては学科長の下、各教務、実技主任を配置し、各学年担任を組織している。	教職員会議において教務会、各科連絡会議、実技会議、国家試験対策会議等の報告や連絡を行っている。	各分科組織における会議は活発に発言されている報告があるが教職員会議は報告の場となっており、全教員が相談できる場への変革が必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教員資格・要件を備えた教員は確保されているが、臨床力があり経験豊富な教員は人間性にも富んでいるが、現代の教育現場の変化に対応しきれない事があり、臨床力に乏しい新人教員はスキルアップの意欲はあるものの人間性構築段階である。この 2 つのタイプの教員の融合する場として経験豊富な教員の授業を新人教員が聴講することを行っている。	大阪大学へ専修学校研修員を派遣し、同大学との研究を行っており、他の専門学校、大学からの派遣研修員とも意見交換を行っている。ガンバ大阪アカデミー、追手門大学、甲南大学の運動部のトレーナー活動を行い、教員のスキルアップに努めている。また、経験を学生にフィードバックしている。

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

竹本 晋史

3-12 教員・教員組織（鍼灸師科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	認定規則ならびに学則で定められた教員資格・要件を備えた教員を確保し教育を実施する。	毎年、認定規則ならびに学則で定められた教員資格・要件を備えた教員を確保している。	教員が退職等で不足した場合、24年度より新規採用を公募している。	
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員の資質向上のため研修計画を定め、適切に運用する。	研修制度を設け、研修内容を教務会が教員個人のキャリアアップだけではなく学生へのフィードバックできるものを許可している。	研修されたものが、どれだけ学生にフィードバックされたか数値化できないため、今後の認定は教育機関への研修にすべきか検討する。	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	各部門（学科）の上位に教務会を設置し、各科においては学科長の下、各教務、実技主任を配置し、各学年担任を組織している。	教職員会議において教務会、各科連絡会議、実技会議、国家試験対策会議等の報告や連絡を行っている。	各分科組織における会議は活発に発言されている報告があるが教職員会議は報告の場となっており、全教員が相談できる場への変革が必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教員資格・要件を備えた教員は確保されているが、人間力・臨床能力・教育力のそろった教員を確保するのは難しく、経験豊富な先輩教員や教員研修・外部セミナーなどによって教員を育てる必要がある。	大阪大学へ専修学校研修員を派遣し、同大学との研究を行っており、他の専門学校、大学からの派遣研修員とも意見交換を行っている。 全日本鍼灸学会での発表など学校として推奨し、他校との交流を図っている。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	内野容子
--------	------------	-------	------

3-12 教員・教員組織（東洋療法教員養成学科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	認定規則ならびに学則で定められた教員資格・要件を備えた教員を確保し教育を実施する。	毎年、認定規則ならびに学則で定められた教員資格・要件を備えた教員を確保している。	今後の鍼灸師のニーズをとらえ新しい分野の専門家を確保する必要がある。	
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員の資質向上のため研修計画を定め、適切に運用する。	研修制度を設け、研修内容を教務会が教員個人のキャリアアップだけではなく学生へのフィードバックできるものを許可している。	研修されたものが、どれだけ学生にフィードバックされたか数値化できないため、今後の認定は教育機関への研修にすべきか検討する。	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	各部門（学科）の上位に教務会を設置している。各科においては学科長の下に、各学年担任を組織している。	教職員会議において教務会、各科連絡会議等の報告や連絡を行っている。	各分科組織における会議は活発に発言されている報告があるが教職員会議は報告の場となっており、全教員が相談できる場への変革が必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教員資格・要件を備えた教員は十分確保されているが、より専門性の高い臨床および研究能力を持つ教員を確保する必要がある。</p> <p>補完代替医療や、EBMの実践など現在求められている鍼灸分野に精通した教員も必要である。</p>	<p>大阪大学へ専修学校研修員を派遣し、同大学との研究を行っており、他の専門学校、大学からの派遣研修員とも意見交換を行っている。</p> <p>全日本鍼灸学会での発表など学校として推奨し、他校との交流を図っている。今後は学校協会で行われる教員研修への参加など検討する必要がある。</p>

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

内野容子

3-12 教員・教員組織（日本語学科）

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	規則ならびに学則で定められた教員資格・要件を備えた教員を確保し教育を実施する。	毎年、規則ならびに学則で定められた教員資格・要件を備えた教員を確保している。		
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員の資質向上のため研修計画を定め、適切に運用する。	教材研究や、誤用分析をし、検討する時間を持つように取り組んでいる。	定期的実施することが難しい。今後定期的実施のための時間の確保が課題となっている。	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	各部門（学科）の上位に教務会を設置し、学科においては学科長の下、クラス担任を組織している。	授業後、授業の報告を実施。	現在は少人数であるため特別な時間を設けていないが、今後学生、教員数が増えた場合は、定期的にミーティング時間を設け、他学科にも教職員会議などで発信していく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教員資格・要件を備えた教員は確保されているが、2014年は設置初年度という中で、全体のスキルアップを実施にまでは及んでいない。教員の向上心を満たすための勉強会や意見交換会、教材研究会を計画している段階。外部でのセミナーにも参加しやすくなる取り組みをしていく。	

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	北野 吉廣
--------	------------	-------	-------

基準 4 学修成果

(4)

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>毎年の国家試験合格率はおおむね柔道整復師科で 90%以上、鍼灸師科では 95%以上である。</p> <p>【柔道整復師科】 国家試験合格率は新卒者 81.8%（25 年度 86.5%）で昨年度の合格率より下回ったが、新卒者全国平均が 80.8%（25 年度 83.7%）と昨年度から合格率が下がっていることを考慮すれば、一定の成果を挙げていると見られる。昨年度の反省から両科の結果から不合格者の精神的、内面的な学生支援も必要と考えており、従来通り 3 年次担任が卒業後も連絡を取りながら再度国家試験受験に向けてアドバイスは行っている程度で、具体的な支援はまだ不十分である。</p> <p>【鍼灸師科】 国家試験合格率は新卒者はり師 96.2%（25 年度 94.3%）、きゅう師 96.2%（25 年度 95.4%）であり、新卒者全国平均はり師 90.0%、きゅう師 91.4%を上回っており成果があったと考えられる。</p> <p>【東洋療法教員養成学科】 はり師きゅう師教員を輩出した。就職先である養成校からの求人が減少している現状もあり、求人校からの要望に応えるため多岐にわたる教授能力が必要となる。このことを踏まえ次年度以降の講師依頼を検討することとしている。</p> <p>【日本語学科】 設置初年度であり、入学生が卒業時期ではないため正確な成果を示すことが出来ないが、模擬試験における成績は向上している。編入者に関しては目標であった日本語能力試験 N 1 に不合格であった。学生の学力、性格を測る為の時間的余裕が無かったことが原因と思われるが、今回の反省を含めて日本語能力試験 N 1 対策を今後検討が必要である。</p>	<p>【柔道整復師科】 今年度は合格率 100%を目標に卒業判定基準を改正した年度であり、目標達成を期待したが、本校の目指す 100%はおろか 90%を大きく割り込んだことを反省し 27 年度为国家試験対策を再検討する必要がある。 今年度、治療所見学実習を行い、従来校内でしかできなかった模擬患者への対応を実際の患者対応を見学することで、より実践的に学ぶことができた。今後は将来、柔道整復師として学生が描く理想の治療所を多く募り、学生が具体的に進むべき姿を学ばせる機会を多くとることが必要である。</p> <p>【鍼灸師科】 柔道整復師科同様に卒業判定基準を改正したが、合格率 100%にわずかに及ばなかった。原因として就業しながら学校以外での学習時間確保が出来なかった学生がみられた。それらの学生は、学習時間が足りないことを自覚しながら経済的な問題で学習時間を増やすことが出来ず、国家試験までの学習に集中出来なかったと思われる。 卒後勤務先治療院からの評価で実技技能が芳しくなかった為、2 年前より鍼灸臨床座学、実技の授業に関して臨床経験豊富であるベテラン教員を非常勤講師に迎えより実践的な講義を展開している。今後も教員経験が浅い専任教員がベテラン教員の指導を受けることや、意見交換することにより国家試験の合格率向上と卒業してから実践的に使える技術習得を目指す。</p> <p>【東洋療法教員養成学科】 平成 18 年設置し、20 年に卒業生を輩出して以来、毎年はり師きゅう師教員を輩出している。 【日本語学科】 偏った考えの無い、素直な学生が多く、日本の生活にも文化にも積極的になれようとする姿勢がみられるが、将来的にどのような専攻分野に進学したいか模索する積極性は少ない。2 年生になってからの動向に注意する。</p>

最終更新日付	2015 年 5 月 30 日	記載責任者	北野 吉廣
--------	-----------------	-------	-------

4-13 (1/1)

4-13 就職率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13-1 就職率の向上が図られているか	就職率 100%を目標とする。	キャリアサポート委員会に相談に来る学生に対しては、就職完了まで支援を継続して行っている。また「就職相談会」を実施し、学生が直接就職先に相談できる機会を設けている。就職率は 75.0%であった。(他科への進学 8.3%、その他 16.7%)	概ね卒業生は就職できている。国家試験合格後に就職活動を行う学生に就職完了の遅れが生じてしまう事例が増加しているが、就職先の治療院等に現状の説明と理解を求め中期的な求人募集をお願いしている。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>【柔道整復師科・鍼灸師科】</p> <p>就職に関してはキャリアサポート委員会を設置し、学生の要望を個別にヒアリングする担当教職員を増員し、学生の要望に合った治療院とのマッチングを強化した。卒業後の進路状況は、75.0%が就職、8.3%が他学科等へ進学、16.7%がその他で、卒業生の大部分は就職している。ただし、新規採用されてもその後、短期で退職、転職したものの状況は十分に把握できていない。卒業後の継続的な就職状況の確実な情報収集の方法を模索中である。</p> <p>【東洋療法教員養成学科】</p> <p>就職率 100%であった。</p> <p>【日本語学科】</p> <p>卒業生は途中編入者であり、また日本国での就業が認められないので就職率は表せない。</p>	<p>【柔道整復師科・鍼灸師科】</p> <p>求人募集をしている企業に参加を募り、卒業生には就職先を現役学生には研修先と直接相談できる機会を設けることにより、本校も企業体の状況や環境を把握し、優良企業を把握し卒業生や現役学生が就職後も業に対して夢や希望が持てることを企図している。</p> <p>柔道整復、鍼灸業団が多数存在し、それに加え業団未加入の個人開業者が増加した影響で開業している施術所自体が把握しきれない状況であり、そこに就職が決まってもその後の情報が収集しがたい業界である。</p> <p>福祉介護関係の企業から柔道整復師、鍼灸師として求人が毎年増加傾向である。このことは柔道整復師、鍼灸師の業権拡大につながっており卒業生にはより多くの就職選択肢が増えたことにはあるが、卒業生の就職希望先としてはまだまだ医療系が人気である。</p> <p>【東洋療法教員養成学科】</p> <p>今年度卒業生は、入学前から就職先が決定していた為、特別な活動は行っていない。</p>

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

北野 吉廣

4-14 資格・免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	<p>【柔道整復師科・鍼灸師科】 合格率 100%を目指す。</p> <p>【東洋療法教員養成学科】 入学生が全員 2 年後に教員資格が取得できることを目指す。</p> <p>【日本語学科】 日本語能力試験（N1、N2 レベル）の 100%合格と日本留学試験高得点を目指す。</p>	<p>【柔道整復師科・鍼灸師科】 卒業判定基準を大幅に変更した。国家試験合格率は、常に 90%前後を達成し、はり師きゅう師合格率は 96.2%と好成績であったが、今年度は柔道整復師合格率が 81.8%であり低迷した。</p> <p>【東洋療法教員養成学科】 100%教員資格を取得した。</p> <p>【日本語学科】 年度途中編入生が日本語能力試験を受験したが不合格であった。 設置初年度入学生は、今年度受験予定であるため結果は出していない。</p>	<p>【柔道整復師科・鍼灸師科】 卒業判定基準を大幅に変更したことに学生が対応しきれなかったのか、結果的に変更した基準が適正であったのか検討が必要である。</p> <p>【東洋療法教員養成学科】 単に資格取得だけではなく教員資質向上が求められている養成校求人に対応するために担当講師や教育環境の整備も含め新たな取り組みが必要と考える。</p> <p>【日本語学科】 日本語能力試験合格とそこから先を見据えた大学進学を意識づけることができるかが課題である。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>【柔道整復師科・鍼灸師科】 卒業判定基準を変更し、新卒生の国家試験合格率 100%を目標とした。結果的に鍼灸師科はわずかに及ばず、柔道整復師科では大きく合格率が下がった。国家試験も年々難易度が上がっておりそれに対応すべく毎年の分析が必要であり、学生個々の性格や生活環境も把握した指導もさらに必要である。</p>	<p>【柔道整復師科・鍼灸師科】 3 年生で過去最大人数の原級留置者があった。国家試験合格を目標で入学したにもかかわらず、3 年生進級時で国家試験合格を目指すためのモチベーションが低下している学生が毎年多くなってきており、指導に苦慮している。</p>

最終更新日付

2015 年 5 月 30 日

記載責任者

北野 吉廣

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<p>教育内容の改善という観点から、卒業生の動向について把握する。</p> <p>【柔道整復師科・鍼灸師科】 臨床の現場で即戦力となる基礎的な能力を有する人材を輩出する。</p> <p>【東洋療法教員養成学科】 普通教員としてすべての科目に対応でき、実技能力も有し教育現場で即戦力となる人材を輩出する。</p>	<p>同窓会組織と連携し、卒業生の状況や、卒業生からの学校への求人状況から一部の卒業生の開業状況は把握できている。SNS等のツールを使い情報を発信し、卒業生の動向を探る。</p> <p>【柔道整復師科・鍼灸師科】 ゼミナール等の特別講義で医療、スポーツ、美容等の専門家を非常勤講師として迎え、実践的な実技指導を行っている。トレーナー資格(JATAC-ATC)やアロマセラピーアドバイザーの資格取得を可能とした。</p> <p>【東洋療法教員養成学科】 臨床家を非常勤講師としている。</p>	<p>業界を離れていく卒業生の把握が極めて困難である。</p> <p>SNS等で情報発信しているが、情報収集しない卒業生には対応しきれない。</p> <p>【柔道整復師科・鍼灸師科】 特別講義は夏期集中講義であるため、長期的な技術能力維持が困難である。</p> <p>【東洋療法教員養成学科】 臨床系の講師は充実してきているが、教育学系の講師の充実も必要である。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>同窓会組織や関連団体の情報から一部の卒業生の開業状態は把握できているが、就職先の個人の評価は入手できていない。また、極僅かであるが業界を離れた卒業生の動向は把握しきれない状況である。</p> <p>【柔道整復師科・鍼灸師科・東洋療法教員養成学科】 臨床・教育の現場で即戦力となる能力を有する人材輩出に努力し、講義や講師の選択を毎年検討し、改善すべき点は改善を行っている。</p>	<p>新カリキュラムへ移行後は、医療、スポーツ、美容等の特別講義や臨床家による実技指導を多く取り入れている。</p>

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	北野 吉廣
--------	------------	-------	-------

基準5 学生支援

(5)

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の特徴である「学生との距離が近い教職員・教育」のもっとも重要視しているのが学生支援である。</p> <p>特に専門学校学生は高校卒業生から社会人経験者と年齢層も幅広く、人生経験もさまざまである。その学生たちが同じ環境で学ぶにはより多くの意見や要望を学生から拾い上げることが必要である。それ故に学生から教職員の顔や名前が出るような取り組みを行っている。</p> <p>成績不振者、経済的困窮者には個人的ではなく多くの教職員が情報を共有し、学生から相談しやすい環境を整備している。</p> <p>経済的支援に関しては分納制度や奨学金、教育ローンの紹介や説明を行い就学意欲が高いにも関わらず経済的に学費未納となり退学、除籍とならないように支援体制を整えている。その一環で本校独自の入学後奨学金制度、夜間奨学金制度も導入している。</p> <p>就職支援に関してはキャリアサポート委員会を設置し、担当者が学生、卒業生の就職先希望を汲み取り、また求人企業に対しては積極的に求人情報の収集に努めている。</p> <p>卒業生が柔道整復師、鍼灸師として資格取得で完結せず、将来にわたって取得した資格で社会貢献し、日本国民の健康維持と業界の発展の一躍を担うことが出来る医療人として卒業し、資格取得後にさらに希望に満ちた道を示し、導くことも学生支援の一つであり最終目標であると考えている。</p> <p>留学生に対して相談窓口を設けている。</p>	<p>担任制度を開校以来導入し、学生個人の学習や生活面の相談も受けている。</p> <p>未成年者が多く入学している傾向から従来から行ってきた保護者との連携をさらに密に行っている。</p> <p>同窓会組織が講習会を卒業生、在校生にも提供しており、そこでの交流は在校生にとっては卒後の情報収集の場となり、開業している卒業生にとっては将来の就職情報を提供できる相互交流の場となっている。</p> <p>年数回、求人先企業担当者と就職・アルバイト希望卒業生、在校生との校内就職相談会を実施し、キャリアサポート委員会が双方をマッチングしている。</p> <p>留学生の住居、アルバイト等の生活環境の相談を行っている。</p>

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

北野 吉廣

5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	本校学生に対してよせられる多数の求人票をもとに、個別で就職支援を行い、卒業時、在校時を問わず、高い就職率を維持する。	キャリアサポート委員会を設置し担当教職員を増員した。施術所アルバイトや就職の相談窓口は担当者がマンツーマンで相談にのり、就職支援のための環境整備、並びに就職相談会の開催などさまざまな支援を行っている。	求人企業（施術所）の求人票を掲示していたが、個人情報流出の問題もあり、担当者が求人票をファイリングしたものを希望者に開示している。 今後も関係団体等の連携を密にし、就職先・アルバイト先の選択肢を増やし、就職支援の充実・強化が必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
キャリアサポート委員会が就職等の相談を行っている。担当者が個別に就職支援を行っている。また、求人票を出している施術所を招きマッチングさせる就職相談会なども開催し、一定の成果と評価を得ている。	過去に求人企業（施術所）の求人票を掲示しており、学生が個人の判断で求人企業へ連絡を取り問題となって以降、就職支援に面接時等の礼節指導も行うようになり好評を得ている。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	北野 吉廣
--------	------------	-------	-------

5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	退学の前兆である行動を早期に把握し、個別に対応することにより退学率を低減する。	学費の滞納、長期欠席、成績不振などの学生に対して、速やかに教職員面談を実施している。 【柔道整復師科・鍼灸師科】 昨年度より退学者は減少している。	学生が連絡を受けることを拒否する状況や、保護者へ連絡を行っても保護者自身も学生と連絡が取れないケースなどもあり苦慮している。 【柔道整復師科・鍼灸師科・教員養成学科】 欠席に関しては連日の欠席もしくは、同じ授業が2週連続で欠席した場合に注意喚起を促している。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学率0%を目標として、経済的な事由による退学は事務職員、長期欠席、成績不良による退学は教員が窓口となり、退学に至るまでの早期段階で、教職員と学生がしっかりコミュニケーションを取り、退学を回避する方法を模索し、退学率の低減を図っている。	新入学生の基礎学力の低い学生が多くみられた。以前では前期試験後の成績の結果が芳しくなかった学生がその後就学意欲をなくし退学した経緯があったが、今年度は専任教員だけではなく非常勤講師の協力もあり就学意欲を取り戻した学生が多かった。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	北野 吉廣
--------	------------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	担任制により各学年を運営し、教務部や事務室との密接な連携体制を整えて学生相談に臨んでいる。 FD委員会、ハラスメント委員会を設置している。	グループウェア（職員用ネットワーク）を活用することにより、担任や事務室担当職員との密接な連携により個別に対応している。	学生間の人間関係トラブルに介入すべきか否かが課題である。社会人学生は個人としての意見をしっかり持っていることが多く、団体行動に関して協力的、非協力的な態度がはっきりしており相談を受けても結果的に自己主張を聴取するだけになっている。	
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	留学生に対する学生相談体制を整備する。	日本語学科が設置された。それに伴い、日本語学科の教員が個別に留学生の相談を受けている。	【柔道整復師科・鍼灸師科】 日本における急速なグローバル化に伴い留学ではないが日本で生活する外国人の入学生が毎年数人ある。日常会話は問題ないが、形式的な日本語を理解できないため、苦慮している。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
担任制により学生からの相談に対して教務部や事務室との連携を面談だけでなく職員用ネットワークを活用して情報共有を行っている。 留学生に関しては医療専門課程には留学生が在籍していないが、日本語学科が設置され、相談環境は徐々に整備している段階である。留学生に対する教育経験者が相談を受け付けている。	学生が匿名で要望を投書できる「目安箱」を設置しており、教育内容、環境整備等に関する要望を収集することに努めている。

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

北野 吉廣

5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	独自の支援制度と、外部の支援制度を熟知し、学生一人ひとりにとって適切な支援方法をアドバイスする。	学費の分納や入学時奨学金制度、社会人が就学しやすいように夜間部特別奨学金制度を導入し、日本学生支援機構奨学金制度説明会や個別の説明を行っている。	奨学金を貸与されている学生が年々増加している。奨学金を貸与されている認識に乏しい学生も増加傾向で説明会での理解を高める必要がある。 夜間部特別奨学金制度が 27 年度入学生で終了する。	
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	学校保健安全法に基づく健康診断を全学年に実施し、その他必要と思われる健康管理上の体制は整備する。 入学後、もしくは新年度授業前に健康診断を行っている。 校内における重度外傷や緊急疾患に対しての緊急時対応マニュアルに基づき対応する。	学園グループの医療機関に協力を要請し、平成クリニックにて全学生に健康診断を行っている。また、鍼灸師科が生徒への B 型肝炎抗体検査及びワクチンの接種を実施しや、インフルエンザ予防接種も安価な受信料で摂取できるように配慮している。	大きな問題は無いが、健康診断で各種抗体検査の結果から反応が出た学生には個別で担当者が相談を行っている。 緊急時対応マニュアルに沿って救急搬送等を行っているが、保護者への連絡がつかないケースもしくは連絡を拒否する学生がいる。学生と保護者との良好な関係が保たれているか否かまで把握できない。	
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	要望があれば、可能な限り十分な支援を行う。	遠方からの通学者が少ないため、学生寮は所有せず、数社の学生マンション斡旋業者と提携し希望者に紹介するという支援にとどまっている。	本校は大阪駅にも近く近隣には大手予備校が存在しているため優良学生マンションが多く存在している。	

<p>5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか</p>	<p>スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援体制を充実させる。</p>	<p>クラブは柔道部、トレーナークラブがあり教員が顧問となっている。その他の活動は地域の祭りへの模擬店参加やボランティア参加であるが、学友会（生徒会）を中心に、学生が主体となって活動している。学生の要望に応じて活動を支援している。</p>	<p>クラブ設立までのサークル活動を希望する意見があるが、就業規則の問題もあり教員が顧問として支援できないため学友会を後方支援している。 学生個人もしくはグループが中心となりサークル活動を行っているが、学校管理下で活動を認めていない。</p>	
------------------------------------	--	---	---	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生が学生らしく勉学に勤しめる環境整備に努めている。 近郊から通う学生や就労している学生が多いため学生寮などの設備整備やクラブ活動などの課外活動支援は不十分であるがそれに関わる支援を行っている。</p>	<p>トレーナークラブ部員を中心にスポンサー契約しているガンバ大阪、スペランツァ FC 大阪高槻でのトレーナー活動見学や、追手門学院大学等の提携トレーナー活動見学等を行い、校内でのトレーナークラブで得た知識、技術を活動見学で活かすように努めている。</p>

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	北野 吉廣
--------	------------	-------	-------

5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか	未成年者の学生に対しては、保護者と適切に連携を取り、教育活動に取り組む。	入学式後に保護者向け説明会を実施している。個別に相談も受け入学後の連携の了承を得ている。 未成年者の学生における学費未納者、不登校者、成績不良者については、保護者との連携の上、教職員が複数名で対応している。	入学式の保護者出席率が高まっている。 社会状況から保護者と学生との対話が少なく、就学状況を保護者が把握していないことがあり、苦慮している。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
近年、未成年者の入学が増加傾向にあることから、保護者に入学式後の保護者向けオリエンテーション参加依頼と、自宅学習の必要性、通学、学費の支援をお願いし、学費の未納者や不登校者に対しては、早期に保護者と連携をとり、お互いにとって有益な解決策を模索している。	保護者へ連絡する際に固定電話では繋がらない社会状況を考慮し、保護者の了解を得て、緊急連絡先として携帯電話番号の登録をお願いしている。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	北野 吉廣
--------	------------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	支援要請内容により、事務室あるいは同窓会にて適宜支援を行う。	同窓会事務局を校内に設置し、事務室と密接に情報共有している。また同窓会主催の卒業生の勉強会などに施設を優先的に提供している。	年々卒業生の住所変更等に伴う連絡不通があり卒業生への有益な情報が発信できないケースが増加している。	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	業界団体ならびに同窓会組織等と連携して、卒業生の再教育の機会を積極的に提供する。	同窓会組織による講習会をほぼ毎週行っており同窓会が講師料を一部負担している。講習会もマンネリ化した内容の講義、講師があり、参加人数が減少傾向であったため、講師変更や講習内容変更を行った。	他校人気講師への依頼も行き参加人数が増加した。次年度以降も本校専任教員が渉外し他校人気講師へ講師依頼を行う。	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	開校以前から柔道整復師、鍼灸師を目指すものは社会人が多く、元々大人の教育、環境を有している。	教員も柔道整復師、鍼灸師としての社会人経験者だけでなく他業種から転職して教員になったものが社会人の相談を受けている。	社会人経験無く専門学校もしくは大学、大学院を経て教員として入職した教員も増えており、教員への人間教育のための研修を行っている。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
同窓会組織と連携して卒業生への各種支援を行っている。 今後も業界や社会のニーズに応える体制や環境整備を進める。 卒後の再教育には本校関係講師だけで行ってきたが、一部内容を変更し、他校講師にも講義を依頼し、より臨床的、実践的な講習会を展開している。	本校の同窓会が行っている講習会は年間70回以上であり他校には無い支援である。この講習会は在校生も受講できる。他校人気講師に依頼をかけた減少気味であった講習会参加人数が増加した。

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

北野 吉廣

基準 6 教育環境

(6)

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>設立当初の設備・備品等の老朽化が進行しているため、教育活動に密接に関連する設備・備品等について、教育環境の快適さの改善、教育効率の改善などを優先して、段階的計画的に更新中である。</p> <p>また、大災害への不安が年々増す中、安心して教育が受けられる教育環境を提供する意味からも、大阪市北区の津波災害等の避難施設として指定を受け、大阪駅周辺地区帰宅困難者対策協議会にも参画するなど、安心・安全・快適な教育環境の提供を目指して改善・向上に注力していく。</p>	<p>日常的な学習環境の改善として、学生用椅子の更新、授業用プロジェクターの更新などを実施した。</p> <p>海外研修や学外実習などを積極的に導入し、バリエーション豊富な教育環境を提供できるのが本校の特徴である。</p>

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	施設、設備は、教育に支障がないように整備し、教育に必要な新しい設備は積極的に導入を検討する。	老朽化した学生椅子の段階的（平成25年度120脚、平成26年度120脚）な更新（入替）を実施。 教室（6教室分）のプロジェクター設備を卓上型から天吊り型へ更新を実施。 第2校舎エレベータ運営プログラムを変更し各階での待ち時間を短縮。	学生のコミュニティースペースの設置を検討。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設立当初の設備・備品等の老朽化が進行しているため、教育活動に密接に関連する設備・備品等について、教育環境の快適さの改善、効率の改善などを優先して、段階的計画的に更新している。	

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関連組織や機関と連携し、十分な教育体制を整備する。	国内では、プロサッカーチームや大学等の教育機関での学外実習先を確保するとともに、希望者のみの参加ではあるが、毎年、海外での短期留学を企画し、実施している。 海外での短期留学は、フィリピンデ・ラサル大学(フィリピン)、ならびにホーチミン市医科薬大学(ベトナム)で実施した。	プロスポーツ現場での実習は先方のスケジュールおよびチーム事情優先であるため年間スケジュールに組み込み難しく提携大学のスポーツセンターでの実習を検討している。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
カリキュラムを変更して学外実習を行えるように整備し実習実施に力を入れてきた。実習受け入れ先の状況により毎年安定した実習が行えなかったが、受け入れ先との意見交換を経てようやく安定した実習が行えた。今後はより多くの安定した実習先を獲得していく計画である。	高校サッカー部の試合のサポートを行う実習を数年前から行っており、今年では学生への指導も事前に行えるよう授業内で計画的に実行し、実習先からも評価を得た。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	北野 吉廣
--------	------------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	年に2回の消防用設備点検等を実施し、災害に備えた保険にも加入する。 また理事長を管理権原者とし、事務長を防火管理者とした防災の体制を整え、災害発生時には速やかに対応する。	大阪市北区の津波災害等の避難施設として大阪市北区と協定を締結し、生徒のみならず地域住民の防災拠点としての役割を果たす。 また、梅田駅周辺地区帰宅困難者対策協議会にも学校として参加している。	避難施設としての備品等の整備の充実も行う必要がある。	
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	緊急時対応マニュアルを作成し、体制並び連絡網を整備する。また生徒全員を学生傷害保険に加入し、教育活動及び自習等における不慮の事故に備える。	緊急時の対策マニュアルを作成し、教職員が緊急時の対応について共通理解をもっている。緊急連絡網については変更があれば随時更新している。	緊急時の連絡網が、電話によるものであり効率が悪いいため、ITを活用した効率的なシステムの導入を検討する。	緊急時対応マニュアル

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
大阪市北区の津波災害等の避難施設として大阪市北区と協定を締結したこと、また本校の所在地は南海トラフ地震による津波の浸水地区として指定されていることにより、教職員の、防災・安全管理に対する意識は高まっている。	大阪駅周辺地区帰宅困難者対策協議会にも参加しており、今後、学生や教職員、地域住民だけでなく、帰宅困難者への対応も考慮した防災・安全管理を行う必要がある。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受入れ

(7)

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1.学生募集 入学試験の実施については、大阪府専修学校各種学校連合会の基準に基づいて実施している。 学校パンフレットについては、教員や在校生・卒業生のメッセージを多用すると共に、各学科のカリキュラムや学校生活、スポーツトレーナーの役割と医療国家資格取得について、わかり易く伝える事に努めている。 オープンキャンパスや夜間体験授業、個別相談を数多く実施し、来校者に対して本校の特色をよく理解して入学してもらえる様に注力している。 オープンキャンパスは、在校生の協力で、より学校生活を理解して貰うために積極的に会話を行い来校者との距離を近づけている。 高校ガイダンスに積極参加し、本校の特色や業界分野をわかり易く伝える事に努めている。</p> <p>2.入学選考 入学選考は、学則に基づき適正に実施している。選考は入試判定会議を実施し、公平に審査し決定している。</p> <p>3.学納金 3年間に必要な学納金や在学中に必要な教材等の費用も詳しく提示し、情報提供を行っている。</p>	<p>1.学生募集 社会人、高校新卒者ともに受験者数が増加した。より丁寧に本校の特徴をアピールして行くと共に、わかり易く情報提供し、職業の魅力をしっかりと伝えていった結果である。 特に、高校新卒者の受験生を更に増やす為に、保護者にもわかり易く資格の特性や学校を理解して貰える様、学校パンフレットとは別に、保護者向けパンフレットも制作し、保護者の理解も深めて貰う事を重視している。 また、継続的なトレーナーセミナーの開催など、入学前教育の実施により、ミスマッチによる退学者を未然に防ぐように努力している。</p> <p>2.入学選考 近年は高校新卒者の比率が増えてきている。今まで以上に個人情報の取り扱いに留意し、高校との連携を深めて行かなければならないと考えている。</p> <p>3.学納金 教育ローンや奨学金制度の説明等、更にわかり易く情報提供していく事が必要と考えている。</p>

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	教育機関が必要とする情報は、適切な方法で、速やかに公開・提供する。	教育機関が必要とする情報（就職実績、資格取得実績、必要総学納金額など）は学校案内やホームページにより公開し、必要であれば入試広報スタッフが訪問し、説明している。	国家資格合格率や求人数に対する就職率を的確に集計し、情報提供を行っていききたい。	募集要項 学校案内
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	大阪府専修学校各種学校連合会の入試選抜基準に基づき実施する。	大阪府専修学校各種学校連合会の入試選抜基準に基づき実施している。	高校への認知度を更に高める為に、高校ガイダンスや会場ガイダンスに積極参加している。参加者から好評価を頂いており、更に充実を図って行く。	募集要項 学校案内

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入試広報に関する組織を充実し、学校案内、受験者及び保護者や高校への情報提供が密に行われている。又、資料請求者から出願、入学に至るまでの情報が一元化され情報は統一されている。今後更に学校認知度を高める活動を行っていききたい。	オープンキャンパス等で来校する高校生が増加している為、更に特色のある体験授業を実施し、より丁寧に本校の特徴を伝える事で高校新卒者の入学を増やしていききたい。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	全ての入試において、複数の評価基準を設けており、公平な判断を行っている。	入試判定会議において、任命された委員による判定会議にて選考されている。	面接試験を重要としている為、今後も客観的な評価が出来る面接官の育成を続けていきたい。	入試判定会議議事録
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	入試選考結果を把握し、今後の学校運営ならびに教育内容に反映させる。	入試選考結果、ならびに受験者アンケート結果を、運営者会議ならびに教務会に報告し、今後の学校運営や教育内容に反映させている。	選考結果及び受験者から得た情報を的確に整備すると共に、改善すべき点は教務会等で決定し実施して行きたい。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各部門の責任者と学科教務担当者が入試判定委員となっている為、この委員で判定会議を行い、適正で公平な選考を実施している。	高校新卒者の受験者が増えてきている為、個人情報の取り扱いに留意して、高校との連携を更に深めて行きたい。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	月単位で経費構成を把握し、学納金構成に対して、適正に推移しているかチェックする。	経理担当者が、経費処理の際に、部門ごとの集計できる運用方法により、月次で管理している。	現在まで、大きな問題は生じていない為、今後も現状の体制を維持発展させる様に努めていきたい。	募集要項 学校案内
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	辞退を受付ける期限・連絡先、授業料の返還等については、募集要項に明記し、迅速な対応を行う。	辞退者には辞退届を提出させ、授業料返還等の手続きについて説明するとともに、円滑に遂行できるように体制を整えている。	現在まで、大きな問題は生じていない為、今後も現状の体制を維持発展させる様に努めていきたい。	募集要項 学校案内

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ホームページ、学校案内、保護者向けパンフレットを通じ、受験者、又は保護者に対してもわかり易く情報提供が出来る様心がけている。	奨学金制度を含めた学納金の情報が重要になっている為、今後も更なる情報共有を図って、受験者や学生に適切なアドバイスが出来る様に実施して行きたい。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

基準 8 財務

(8)

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学の財務運営に当たっては、経営の安定を図るとともに、健全な学園運営を行うために、学生生徒等納付金などの収入の確保と支出の削減を図り、経営の合理化・効率化に努めています。</p> <p>帰属収入は、宝塚医療大学、及びなほ歯科衛生専門学校の学年進行による学生生徒等納付金の増加により、前年度より 4.7%増加しています。</p> <p>一方、消費支出は主に人件費、教育研究経費、管理経費は増えているものの、全体として 0.3%と若干の増額で納まっているため、結果として、学園としての平成 26 年度の消費収入（支出）超過額は増加しました。</p>	<p>平成 27 年度より、学校会計基準の改正に伴う、会計処理及び計算書類の変更等に対応した財務管理を行っている。</p>

最終更新日付	2015 年 5 月 30 日	記載責任者	増田 順一
--------	-----------------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	中長期的な学校の財務基盤の安定を第一に考える。	平成 26 年度の学園全体の帰属収入が、消費支出を上回り、中長期的には安定要因が上回っている。	設備の老朽化による更新等で大きな支出が必要となってくるため、中期の構想に基づく財務計画が必要となる。	
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握する。	主要な財務数値の推移は、月次で把握している。	財務数値の推移の把握だけでなく、経営分析への過程へと発展させることが必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園として、学生生徒等納付金の増加による帰属収入の増加と、人件費ならびに管理経費の節約による消費支出の節約により、より財務基盤は安定している。また、財務数値については月次で分析・管理している。	学校会計基準の改正に伴う、会計処理及び計算書類の変更等に対応した財務管理への速やかな移行。

最終更新日付	2015 年 5 月 30 日	記載責任者	増田 順一
--------	-----------------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	年度予算、中期計画は、目的目標に照らして、有効かつ妥当なものとする。	年度予算は有効で妥当なものとなっている。中期的な計画は見込んではあるが、より精度は高める必要がある。	4半期ごと、半期ごとの確認作業で、修正・補正に対応する。	
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	予算は年度計画に基づき適切に執行する。	計画的に執行されている。事業計画に基づく事業報告書を毎年度、理事会、評議員会に報告している。	統括長として、常任理事を配置し、進行管理を行っている。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
予算、収支計画は、理事会、評議員会で審議され、作成されている。年度ごとの予算の執行内容は妥当である。	統括長として、常任理事を配置し、進行管理を行っている。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	財務について、会計監査が随時適切に実施する。	会計監査は、監査法人による審査と指導を受けている。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
会計監査は、監査法人のもと、公正、適切に実施されている。	

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	私立学校法における財務情報公開の形式に準じて、財務情報公開を実施する。	事業報告書の「財務の概要」の頁に記載し、ホームページにて公開している。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業報告書の「財務の概要」の頁に記載し、ホームページにて公開している。	

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

(9)

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、専修学校設置基準、ならびに、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律、柔道整復師に関する法律、及びあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師に係わる学校養成施設認定規則、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律施行規則に基づき教育活動を行っている。また、加盟している公益社団法人全国柔道整復学校協会等の倫理綱領に基づき、法令遵守の精神を教育に取り入れている。</p>	

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

増田 順一

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	関連する法令を遵守し、適切な学校運営を行う。	関連する法令を遵守し、適切な学校運営を行っている。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法令遵守は当然のことであり、教職員はもとより、学生に対しても指導を行っている。	

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	規程に基づき個人情報保護に取り組む。	保護対象となる情報の持ち出しは申請が必要であり、各PCから各情報へのアクセス履歴をとり、漏洩防止対策のための監視を行っている。	対策は取られているが、規定等の整備を速やかに行う必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報の保護については、個人情報保護法の施行以来一層の厳格さが求められ、組織等からの情報漏えいについては社会的信用の失墜にもつながるため、厳重に管理していきたい。	

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	文部科学省作成の学校評価ガイドラインに従い体制を整備し、評価を行うべきである。	自己評価委員会を設置し、評価項目ごとの自己点検・評価は行われ、自己評価報告書としてまとめている。		平成25年度学校関係者評価委員会報告
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	自己点検・評価結果は、ホームページにて公開する。	自己評価委員会にてまとめられた自己評価報告書をホームページの公開情報の頁にて公開している。		www.heisei-iryogakuen.ac.jp/publication/
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	文部科学省作成の学校評価ガイドラインに従い体制を整備し、評価を行うべきである。	学校関係者評価委員会を設置し、評価を行っている。	委員会委員の構成を検討する必要がある。	
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	学校関係者評価結果をホームページに公開する。	学校関係者評価結果をホームページの公開情報の頁にて公開している。		www.heisei-iryogakuen.ac.jp/publication/

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己評価委員会ならびに学校関係者評価委員会を設置し、文部科学省作成の学校評価ガイドラインに沿う形式に取りまとめている。	

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	教育情報に関する情報公開を学内外に対して積極的に行う。	ホームページに情報公開ページを開設し、「事業報告書」「学校関係者評価委員会報告書」「自己評価報告書」「職業実践専門課程の基本情報」を誰もが閲覧できる。 学外に対しては、授業やゼミナール等の情報について、授業の取材記事や学生の感想等の定性的な情報も含め、学校のホームページ等で積極的に公開している。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学内に対しては、新年度ごとに、教職員には教員便覧、学生には学生のしおりを制作・配布し、積極的に教育内容を公開している。</p> <p>学外に対しては、カリキュラム内容はもちろんのこと、授業の取材記事や学生の感想等の定性的な情報も含め、学校のホームページ等で積極的に公開している。</p> <p>入学検討者に対しても授業見学等は希望があれば随時受け付けている。</p>	

最終更新日付

2015年5月30日

記載責任者

増田 順一

基準 10 社会貢献・地域貢献

(10)

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は地域医療の担い手を育成する教育機関であり、学校としても社会貢献・地域貢献に対する意識は高い。</p> <p>数年前より、業界団体と連携し、スポーツ活動に対する医療ボランティア活動を中心の活動を広げ、今では年間通じて、様々なイベントや団体からの医療ボランティアの要請がある。</p> <p>近年、スポーツ活動以外にも、附属鍼灸接骨院を起点とし、教職員だけでなく、在学生から構成されている学友会も参加し、地域イベントでの健康教室の開催や、子供向けの模擬店の出店、無料健康相談の実施など、さまざまなボランティア活動に積極的に参加している。</p>	<p>学園祭を、近隣地域の公園で開催し、近隣住民（町内会等の地域団体）との交流の場としている。</p> <p>大阪市北区の津波災害等の避難施設としても指定され、大阪駅周辺地区帰宅困難者対策協議会にも参加している。</p> <p>今後、学生や教職員、地域住民だけでなく、帰宅困難者への対応も考慮した防災・安全管理を行う必要がある。</p>

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	学校の資源を活かした社会貢献、地域貢献を積極的に行う	地域住民を対象とした、健康セミナーや、附属鍼灸接骨院を拠点とした無料健康相談などを実施している。		
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	東南アジアを中心に諸外国の教育機関との提携を充実、発展させる。	平成 26 年度より文化教養専門課程日本語学科を設置し、諸外国との交流をより強化している。 また、ホーチミン市医科薬大学と協定を締結し、学生交流として、在校生・卒業生を対象とした、海外短期留学を実施した。(任意参加)		ホーチミン市医科薬大学(ベトナム)との協定書

点検中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>本校は地域医療の担い手を育成する教育機関であり、学校としても近隣地域の各団体(町内会、社会福祉連合会等)との交流を大切にしている。</p> <p>地域の会合にも出席し、地域イベントでの健康セミナーの開催や、附属鍼灸接骨院での無料健康相談を開催など、地域住民の健康維持・増進活動に貢献している。</p>	<p>大阪市北区の津波災害等の避難施設としても指定されている。</p> <p>近隣地域団体の協力により本校学園祭を地域の公園で開催し、地域住民との交流の場としている。</p> <p>ホーチミン市医科薬大学と協定を締結し海外短期研修として学生を派遣した。</p>

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	ボランティア活動の機会を提供し、奨励支援していく。	各種スポーツ活動、地域活動に対するボランティア活動について、随時募集を行っている。	教育編成に組み込める内容に整備する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今まで、スポーツ活動に対する医療ボランティア活動が中心であったが、近年、地域と係わる機会を増やし、スポーツ活動以外のボランティア活動についても増えてきた。	梅田駅周辺帰宅困難者対策協議会に学校として参加し、教職員ならびに学生が有事においてどのような支援活動ができるかを検討している。

最終更新日付	2015年5月30日	記載責任者	増田 順一
--------	------------	-------	-------